

平成 27 年度 第 3 回湖西市男女共同参画審議会

会議録

記録者 市民協働課 吉田

- ▶ 日 時: 平成 28 年 1 月 15 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分
- ▶ 場 所: 湖西市民活動センター 2 階 大会議室
- ▶ 出 席 者
委 員: 池田恵子、山下美恵子、荒井千鶴子、笠木正憲、原道也、五味道隆
事 務 局: 企画部長、市民協働課(課長、課長代理、主任)
そ の 他: (株)サーベイリサーチセンター 静岡事務所 田原
(次期湖西市男女共同参画プラン策定業務委託業者)
- ▶ 資 料: 次第、第 3 次湖西市男女共同参画推進計画骨子案【資料 1】、第 3 次湖西市男女共同参画推進計画案【資料 2】、第 3 次湖西市男女共同参画推進計画案について【資料 3】、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ用語解説【資料 4】

▶次第

1. 開会
2. 企画部長あいさつ
3. 協議事項
(1) 第 3 次湖西市男女共同参画推進計画案について(事務局より)
4. その他
5. 閉 会

1. 開会

2. 企画部長挨拶

3. 協議事項

」(1)第 3 次湖西市男女共同参画推進計画案について(事務局より)

【資料 2, 3 参照】

◆審議会委員の意見

〈基本目標 1 男女の人権の尊重〉

委 員: 「講演会や講座などの実施」の内容で、子供もターゲットとして意識をした取組も必要と考えられるので、対象に「学校」を入れたほうが良いと思います。

事務局: 基本目標 3 で教育の場を意識した施策を設定しており、重複はできる限りさけるよう設定しています。→教育関係機関を追記。

委員： 「広報媒体などによる広報・啓発」の内容について、市役所が主体的に情報発信をしていくことが表れるよう市役所の行う「情報発信」から記載するのが良いと思います。
→書き出しを「ウェブを用いた情報発信」からに修正。

〈基本目標2 男女間のあらゆる暴力の根絶〉

委員： 「男女間」という表現について、実際には男性同士・女性同士などあらゆる暴力があり、あえて男女間という表現をしなくても良いと思います。

会長： あえて「男女間」と書いてあることには、ここでの暴力には、躰と表現されるようなもの（夫からの妻への教育など）、一般的に暴力の範疇に入っていないものを、わざと人権侵害であり、暴力であることを認識してもらうために、DVなどでは「男女間の」という言葉が付いたという歴史的な経緯があります。この場では「男女間の」と付いている意味はあると思います。→修正なし。

会長： 目標指標の中で、「暴力を受けたことのある人の割合」は、実質的には「DVを受けたことがある人」ではないのですか。市民意識調査から実績値を図ると思いますが、意識調査でも「DV経験の有無」を質問しているので、「DVを受けたことのある人の割合」とした方が分かりやすいと思います。→指摘どおり修正。

委員： 目標指数を「0.00に近づける」ではなく「0.00」と言い切ってほしいです。目標に近づけようと努力するのは当たり前だし、近づけることで目標達成ではないと思います。
→指摘どおり修正。

委員： 「関係機関との連携」について、具体的な関係機関を1～2ヶ所例示すると良いと思います。→関係機関を例示するよう修正。

委員： 施策の方向（1）で、「男性サポーター」は具体的にはどのようなものですか。

事務局： 具体的な取組はこれから検討しますが、女性ばかりが暴力防止の取組・活動をするのではなく、加害者と思われがちな男性も防止する活動に参加をしてもらえることを考えています。→記載方法を「男性サポーター」から一般的な文章に修正。

委員： デートDVについて、触れていないのですが。

会長： 施策の方向（1）の事業内容で記載をしたほうが良いと思います。
→指摘どおり修正。

〈基本目標3 制度及び慣行への配慮〉

会長： 目標指標の「各分野」が何かを表記した方が良いでしょうか。

委員： 本来は、平等と思う人の割合が50%を越えていないと男女共同参画社会の実現とは言えないと思いますが、そのような現実的でない目標値の設定はできないのでしょうか。

会 長： 50%とする場合は、いくつか分野を選択をしないといけないと思います。全分野とするのなら例えば 30%程度の設定にするとか。→目標指標自体を検討し、変更。

〈基本目標 4 男女が対等に参画する機会の確保〉

委 員： 「対等」という表現について、個人的には表現が少し尖っている感覚があります。「等しく」の方がやわらかいと思います。

委 員： 「対等」の方が同じレベルで参加できる、「等しく」は誰でも参加できるという感覚で、意味合いが違ってくる感じがします。→修正なし。

会 長： 「自主防災会の役員に女性がいる地区」の指標について、役員が 1 地区 3 名程度いる中で、女性がいる地区は 2 地区しかないというのを、5 年間でせめて 10 地区にしようというのは謙虚な目標では。ただ出してくれというのではなく、行政側からも優先してサポートをする（出前講座の優先）などをしないと変わらないと思います。

委 員： 内閣府の平成 25 年度データから見ても、他の分野で男女共同参画が進んでいるが、防災の面で覆られてしまう部分があるので、啓発的指標の 1 つとして目標指数を検討してほしいです。

委 員： 役員（三役）でなくても、消火班などの班に入っていれば良いのでは。

事務局： 班でカウントすると炊き出し班、救護班なども入ってくる。あえて意思決定という役員に位置づける方が効果的と考えます。

→修正なし。

〈基本目標 5 家庭生活と社会生活の両立〉

委 員： 育児休業だけでなく病時保育なども指標として入れてはどうでしょうか。

会 長： できるならば事業の 1 つにあった方がいいといえいいですね。

→事務局検討。事業として 5 年間での検討の余地が無いため追加は不可。

会 長： ワーク・ライフ・バランスの認知度について、目標指数が低いと思います。

→修正。

〈基本目標 6 男女の生涯にわたる心身の健康への配慮〉

委 員： 将来の湖西市を考えるという意味でも非常に市の施策として重要なところだと思います。

会 長： 人口減少に貢献できるかは結果としてついてくることであって、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方自体がそもそも人口を増やすための手段ではないわけです。

〈基本目標7 国際的協調〉

委員： 国際社会の動向の情報発信とは、情報を発信するのは市内への発信という意味ですか。国際社会へ発信していくという意味ですか。

事務局： 市民の方に国際的に取り組まれているようなものを発信していくことを考えています。

会長： 相談件数の点について、今はそもそも相談にすら来れない人が多いという分析に基づき、まずは来られるようにということで、困って相談する人が増えるということではないということは、読む方に分かってもらえますよね。

〈計画案全体について〉

委員： 目標指標の意図が分かるような説明や解説（別冊でも可）があると、分かりやすくなると思います。

委員： この計画の湖西市の特徴的なものは。

会長： 私の考えとしては、湖西市は産業（工業）のまちなので、ワーク・ライフ・バランスを重点の1つに捉えていること、静岡県は災害のことがあるので防災への対応に力を入れていること、多文化共生の視点が入っていること、の3つが湖西市の計画の特徴だと思います。

4. その他

委員意見書の提出及びパブリックコメントの実施について説明。

5. 閉会